令和4年9月28日 ※1 (前回公表年月日:一)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名														
国際自然環境ア 専門学校		平成16年1月16	日	大瀧則雄		〒949-2219 新潟県妙高市原	通70							
設置者名		(電話) 0255-82-4450 所在地												
学校法人国際総	合学園	平成7年3月24	日	理事長 池田 祥護		951-8063 新潟県新潟市中 025-210-8567	中区古町通2-541							
分野	記	定課程名		認定学			専門士		万度専門士					
文化・教養	文化・	教養専門課程		野外教育・アウトド	アスポー	ーツ学科	平成29年文部科学行 認定	省	-					
学科の目的	践力を身	に着けた自然を舞		観光・ガイド」「アウトドアス E躍する教育のプロを育り		など、自然を活用し	した多分野の教育活動を体	系的に学び、自然	を生かす企画力と実					
認定年月日	平成〇年	全課程の修了に必要な												
修業年限	昼夜	総授業時数又は総単位 数		講義		演習	実習	実験	実技					
3 年	昼間	2896		288		1182	1218	0	208 時間					
生徒総定	Ę	生徒実員		留学生数(生徒実員の内	卓	厚任教員数	兼任教員数	i	総教員数					
20人		20人		0人		5人	48人		53人					
学期制度		4月1日~9月30日 10月1日~3月31				成績評価	■成績評価の基準・方法 評価の基準:	有						
長期休み	■夏期(■冬期(■春期(台:4月1日 木業日: 8月1日へ 木業日:12月20日・ 木業日:3月15日	~1月	10日		卒業·進級 条件	(進級条件) ・要出席時間数の80%以 ・1年次又は2年次に開 たはPの科目評価を受し ・授業料、実習費等の必	上出席しているこ 講された科目にお ナていること	いて、全てC以上、ま					
学修支援等	■個別村 学年担任		方での	の各学生の相談・指導、 への連絡による対応。	. 学校力	課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 0 ■サークル活動: 有							
就職等の 状況※2	 令和3年 ■ 就職 ・・・・ ● 本就職 ■ 本就職 ■ 本就職 ■ 本就職 ■ 本式職職 ■ 本式職職 ■ 本式職職 	よる履歴書作成、 皆数 希望者数 皆数	職実種面接の割の割のである。	務(授業)等の実施 対応等の指導 0 0 0 0	人 人 人 %	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	※種別の欄には、各資格・検定	種別 受験者数						
		え: 3 年度卒業 退学者 4月1日時点におい	て、1	生学者17名(令和3年4月	名 引日入学		記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0							
中途退学 の現状	■中途设 0 ■中退队 •学科: •必要/ ■学校犯	退学の主な理由 方止・中退者支援(主任、学年担任、	のた& 教務部 の実	が長による問題の把握。 施、保護者との協議、産	と共有		ウンセリングの実施							

経済的支援 制度	り、奨学の便をはかるもの。 母子・父子家庭奨学制度:家庭の事 学の便をはかるもの。 災害奨学融資制度:災害にあい、学 学費奨学融資:経済的に就学が困難 一人暮らし支援制度:NSGカレッジリ	青等により1年次学費の準 費の準備が困難な方に対 、あるいは各種教育ロー ーグに入学を希望されるス NSGカレッジリーグの在本		学の便をはかるもの。 とするもの。
第三者による	■民間の評価機関等から第三者評価 ※有の場合、例えば以下について任意記載		無	
学校評価	評価団体: 0	受審年月: 0	評価結果を掲載した ホームページURL	0
当該学科の ホームページ URL	https://www.i-nac.ac.jp/course/outo	door-edu/		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映し た内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2 就職等の状況(※2)

- 「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、 それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。 (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。 ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」 「資格取得」などを希望する者は含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をい
- の、抗酸性はことは、正成の減貨(雇用失利が同か、中央エの非正成の減貨ことで抗酸した者と自己にとし、取職的に指しては、正常ならればこれではない。 ※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の 者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。 (2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他條何的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
- (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学 状況等について記載します。

主な学修成果(※3)

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針
- ①教育課程編成委員会の設置による教育課程の編成と改善

業界において先進的な試みを実施している企業・施設の役職員の参画により、現在の業界の動向や現場で求められる人材ニーズに対応した教育課程を編成し、継続的に改善に努めている。

②職能団体による課程認定および連携科目の開設

(公社)日本山岳ガイド協会の「自然ガイド」の養成校として課程認定を受けており、教育課程の改善について定期的に協議を行っている。また、ガイド協会所属の現役ガイド講師による「自然ガイド検定対策講習」を設置し、人材ニーズの変化に素早く対応できる体制の構築に努めている。

③専門機関としてのi-nacの外部連携と授業内容との連動

近年、教育機関としてだけでなく、アウトドアや地域振興の専門的な知見を有する民間企業としてi-nacが位置付けられ、コンサルティングやプログラム提供の依頼などが増加している(事例:企業幹部のワーケーション研修、新潟県内の講演での親子向けキャンプイベント)。そうした案件を積極的に学生教育へ生かし、連動した動きを取っている。連動のしかたも単なる手伝いではなく、ビジネスベースで通用するクオリティを有した企画や運営を、学生が主体的に実践していくことを重視し、授業内に取り入れている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教務部の上位に教育課程編成委員会を設置する。(添付④参照)学科側から学科の教育目標、授業内容、卒業・就職実績、地域・企業との連携実績を説明し、教職員以外の委員から審査・評価を頂き、また、業界動向、ニーズについての意見を頂く。その上で学校長は、学校側の教育課程編成員と協議して、改善が必要とされる課題や科目を作成する。その後、成果と課題を明確にし、改善策を検討し、次年度以降の教育課程編成に生かし、各評価項目に関する必要な資料やデータを収集し保存する。毎年、継続的に教育課程の改善を行っていく。教育課程編成委員会は毎年度2回ずつ継続的に実施する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年9月28日現在

名 前	所 属	任期	種別
井上 桂	株式会社FEEL	令和4年4月1日~令和5年3月 31日(1年)	3
今田 亜樹	(一社)妙高ツーリズムマネジメント	令和4年4月1日~令和5年3月 31日(1年)	1
大瀧 則雄	国際自然環境アウトドア専門学校学校長	令和4年4月1日~令和5年3月 31日(1年)	_
植木 潤	国際自然環境アウトドア専門学校副校長/事務局長	令和4年4月1日~令和5年3月 31日(1年)	_
田辺 慎一	国際自然環境アウトドア専門学校教務部長	令和4年4月1日~令和5年3月 31日(1年)	_
服部 正秋	野外教育・アウトドアスポーツ学科 主任	令和4年4月1日~令和5年3月 31日(1年)	_
遠藤 晋	野外教育・アウトドアスポーツ学科 副主任	令和4年4月1日~令和5年3月 31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年9月13日 11:00~12:00 オンライン会議ツールZoomにて実施 第2回 令和4年3月16日 11:00~12:00 オンライン会議ツールZoomにて実施 (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

現存のカリキュラム内容・資格取得状況については委員の方々からは概ね良い評価を頂いた。一方で、業界や地域に求められる人材の資質として、アウトドアにおけるスキルを前提としつつ、それを地域内でビジネスに変えていくためのビジネス感覚・経営感覚を磨くことが求められた。それに対応して、年2回の特別授業の講演では、アウトドア業界で起業したり比較的大きな会社で中枢を担う方に、ビジネスの観点からの講演をいただく形に変更している。また、本年度より新規で、「キャンプビジネス実習」という新科目を設置し、アウトドアやキャンプのビジネスの広がりに合わせた内容を実施している他、「エコツアー実習」や「海外研修」といった既存科目でも、ビジネスや経営といった観点を授業内容に取り入れている

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専門的で実践的な技能・知識を有した人材の育成を目指し、企業・業界との連携を図ることを基本とする。

特に、インターンシップ実習および(公社)日本山岳ガイド協会所属の現役ガイドによる実習を基軸に据え、将来の自然環境と関わる上での意識づけ、学習目的の明確化、課題解決能力の醸成、実務能力の向上、業界・地域社会への理解の深化を図っていく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
- ①職能団体との連携科目:(公社)日本山岳ガイド協会「自然ガイドステージⅡ」資格の検定項目に従い、卒業年次学生が自然ガイドの職能に相応しい技能等を身につけているかを本協会検定員(現役の登山・自然ガイド)が検討・フィードバックする(自然ガイド検定対策ⅠおよびⅡにて各40時間ずつ実施)。
- ②インターンシップ実習:学生は学科が提示する企業・団体または当人が希望する企業・団体の中から実習先を選定する。 実習受入依頼は学科主任が行い受入承諾後に実習先と覚書を取り交わす。学生は「学生調書」「参加動機書」を作成し実 習先に送付する。実習中は実習先の指導・指示に従い就業体験を行い、毎日実習日誌を作成、担当者の確認を受ける。実 習後、学生は「実習レポート」「実習日誌」を作成し学科主任に提出する。また、実習先担当者により「行動力」、「社会人 力」、「専門力」、「チームワークカ」に関する成績評価書が作成され、評価結果については学科主任が学生にフィードバック する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科 目 概 要	連携企業等
自然ガイド検定対策I	(公社)日本山岳ガイド協会検定員(現役の登山・自然ガイド)より技能を検討・指導して頂くことで、資格「自然ガイドステージⅡ」に相応しい技能(特にロープワーク、リスク管理等)を育む。	(公社)日本山岳ガイド協会
自然ガイド検定対策Ⅱ	(公社)日本山岳ガイド協会検定員より技能を検討・指導して頂くことで、資格「自然ガイドステージⅡ」に相応しい技能(特に自然解説、ガイド技能等)を育む。	(公社)日本山岳ガイド協会
インターンシップ実習		那須アウトバックツアー、キャニオンズ、信州いいやま観光局、かみえちご山里ファン倶楽部、畑とキャンプの自由な学校みんなの学校(合計5企業)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「国際自然環境アウトドア専門学校 職員の教育・研修に関する細則」の第2条、第3条に基づき、教職員は年2回程度専門 分野および指導力に関する研修を受けることを定めており、年度初めに以下の①②に該当する研修等への参加計画を立 てる他、年度内にて公募が発表されたものは、事務局長、教務部長、学科長にて内容を判断し、参加を検討する。研修参加 については、教務部長、学科長にて参加者を指名し、原則業務として参加する。研修参加後は、必要に応じて内容の共有を 行う

①専攻分野における実務に関する研修等

担当授業、担当業務の質の向上のため、環境保全・環境解析・野生生物調査・体験学習・環境教育・地域づくり等に関連 する団体の主催する研修・研究会に参加し、自然ガイドや環境保全の職業実務に関する知識・技術の向上に努める。

②指導力の習得・向上のための研修等

法人が組織的に実施する研修に参加し、専修学校の教員に必要な資質の向上に努める。研修テーマは、就職指導、メン タルヘルス、対人コミュニケーションとプレゼンテーション、問題解決、マネジメントとリーダーシップ、リスクマネジメント等で

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

スノーピーク社員向けアウトドアスキル研修 連携企業等:(株)スノーピーク 研修名:

対象: 田辺 慎一(教務部長 期間: 令和3年12月7日(火)~9日(木) /学科主任)

実務の研修。(一社)野遊びリーグの「野遊びアカデミー事業」(野遊び人材の育成を目的とする)を、当該 内容 教員が主担として業務委託を受けている一環として、スノーピークのアウトドアスキルを習得するために受

②指導力の修得・向上のための研修等

連携企業等: 国際総合学園 研修名: 考課者研修

対象: 田辺 慎一(教務部長 期間: 令和3年6月24日(木)

/学科主任)

指導力(フィードバック能力)の向上。人事制度の内容や仕組み、人事考課の基本を理解する。人事考課 内容

や考課のフィードバック方法のポイントを習得する。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

連携企業等: ㈱スノーピーク スノーピーク社員向けアウトドアスキル研修 研修名:

対象: 遠藤 晋(学科副主 任) 期間: 令和4年9月14日(水)~15日(木)

実務の研修。(一社)野遊びリーグの「野遊びアカデミー事業」(野遊び人材の育成を目的とする)を、当該 内容

教員が業務の一環として、また学校教育に活用するために、スノーピークのアウトドアスキルを習得するた めに受講。

②指導力の修得・向上のための研修等

SNSのリスク教員向け研修 連携企業等: 国際総合学園 研修名:

対象: 遠藤 晋(学科副主 令和4年5月30日(月) 期間:

SNS利用にあたっての効果的な利用方法、マナー、社会的リスクについて学生に指導するための研修 内容

連携企業等: 国際総合学園 研修名: SNSのリスク教員向け研修(卒年次生向け)

対象: 遠藤 晋(学科副主 期間: 令和4年9月27日(火)

企業や個人事業において、SNSを効果的に事業に使うためのノウハウと、それにより生じるリスクについて 内容

学ぶ研修

Ed-Techによる教育の未来 連携企業等: 国際総合学園 研修名:

対象: 遠藤 晋(学科副主 任) 期間: 令和4年9月6日(火)

Ed-Techの導入による学習環境の変化と、一律の集団学習から個別最適な学習への変容について学び、 内容

各学生に合わせた教育の質を高める考え方を習得

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

(1)教育理念•目標

(2)学校運営

「専修学校における学校評価ガイドライン」11項目について自己評価を行い、その自己評価を学校評価委員に公表した上 で、特に重点課題となっているところを説明の上、対策について発表を行う。その上で、学校評価委員の方がたは業界で重 要な位置を占める専門家が多く、業界の最新技術や外部連携についての情報など、指摘事項に基づいて様々な情報を吸 収して学校・授業運営に反映するため、学校評価委員からの意見をいただいた上で、学校長、副校長、事務局長、教務部 長、各学科担当で協議を行い、速やかに学校運営に反映していく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 ガイドラインの評価項目

○学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ○学校の理念・目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ○社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ○学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者 に周知 されているか

学校が設定する評価項目

○各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズ に向けて方向づけられているか

○目的等に沿った運営方針が策定されているか ○運営方針に沿った事業計画が策定されているか

○運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、

有効に機能しているか ○教材・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか

○人事、給与に関する規定等は整備されているか ○業界や地域社会などに対するコンプライアンス体制が整備されてい るか

○教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ○情報システム化等による業務の効率化が図られているか

○教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されて いるか

○教育理念、育成人材像や業かいのニーズを踏まえた学科の修業年 限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされている

○学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教 育方法の工夫・開発などが実施されているか

○関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリ キュラムの作成・見直し等が実施されているか

○関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられてい るか

○授業評価の実施・評価体制はあるか

○職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか

○成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか

○資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置 づけはあるか

○人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教 員を確保しているか

○関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保する などマネジメントが行われているか

○関連分野における先端的な知識・技術等を習得するための研修や 教員の指導力の育成など資質向上のための取り組みが行われている

○職員の能力開発のための研修などが行われているか

(3)教育活動

(4)学修成果	○就職率の向上が図られているか ○資格取得率の向上が図られているか ○退学率の低減が図られているか ○卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ○卒業後へのキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	 ○進路・就職に関する支援体制は整備されているか ○学生相談に関する体制は整備されているか ○学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ○学生の健康管理を担う組織体制はあるか ○課外活動に対する支援体制は整備されているか ○学生の生活環境への支援は行われているか ○保護者と適切に連携しているか ○卒業生への支援体制はあるか ○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
(6)教育環境	○施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか○防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	○学生募集活動は適正に行われているか ○学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ○学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか○財務について会計監査が適正に行われているか○財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	○法令、専門学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか ○個人情報に対し、その保護のための対策が取られているか ○自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ○自己評価結果を公表しているか
(10)社会貢献・地域貢献	○学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ○学生のボランディア活動を推奨、支援しているか ○地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流 ※(10)及び(11)については任意記載。	なし
/ハ、、・ー、/及し、、・・//こと、、「の圧心叩続。	

(3)学校関係者評価結果の活用状況

は、今和4年度以降順次予算建てを行い修繕を 自山委員から指摘のあったクライミングウォールのメンテナンスについては、令和4年度以降順次予算建てを行い修繕を 行っていく。萩原委員から質問のあったオンラインツールの活用については、令和3年度も適宜活用を行っており、令和4年 度以降もコロナ禍の状況に合わせ、また学生の学びを最大化するために遠隔地の講師による講演などに活用していく

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期	種別
		31日(1年)	企業等委 員
	本部長	31日(1年)	企業等委 員
小林 朋広	151元孙6美小在日然小完 配旨	令和4年4月1日~令和5年3月 31日(1年)	企業等委 員
宮下 富男	妙高市原通自治会 会長	令和4年4月1日~令和5年3月 31日(1年)	町内会
宮下 孝	妙高市観光商工課 課長補佐	令和4年4月1日~令和5年3月 31日(1年)	行政機関

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: 公表時期: https://www.i-nac.ac.jp/disclosure/

44865

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動その他の学校運営に関する情報については、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に 準拠し、本校のホームページ、パンフレット、募集要項および学校運営状況に関する資料を別途作成し、企業、卒業生、保 護者、地域住民に対し広く公開する。

また、授業や学校運営でかかわる業界内の専門家だけでなく、専門機関として事業的に連携する業界内企業や行政機関に対して、学校長や副校長、教務部長を中心として学科横断的に接触して、教育活動の質向上を図るとともに、本校で培われている知見についても発信していく。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(2) 専門学校における情報提供等への取組	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	○教育理念○教育目標○教育方針など○学校の特色○学校長、所在地、連絡先○沿革○その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	○定員、入学者数、在籍者数○学科教育目標○カリキュラム○進級・卒業の要件等○取得を目指す資格、合格を目指す検定及び実績○卒業後の進路
(3)教職員	○ ○ 令 令 令 も の も も も も も も も も も も も も も
(4)キャリア教育・実践的職業教育	○キャリア教育への取組状況○実践的職業教育の取組状況○就職支援等への取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	○学校行事の取組状況○課外活動への取組状況
(6)学生の生活支援	○学生の生活支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	〇学生納付金 〇奨学金、授業料免除等
(8)学校の財務	○学校の財務
(9)学校評価	〇自己評価 〇学校関係者評価
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

URL: https://www.i-nac.ac.jp/

公表時期: 44865

授業科目等の概要

	授業科目等の概要 (文化・教養専門課程野外教育・アウトドアスポーツ学科)															
		分数		(食等门 味性野	外教育・アリトトアスホーク字件)	配	授		授	業	方法	場	所	教	員	企
	.27	55*	_			当		単	ē#	2100	実験	++	+*	#	·Mr	業
	必	選択	自由	授業科目名	授業科目概要	年次	業	位	講	演	技実	校	校	専	兼	等と
	修	必修	選択			学	時	数	義	習	投美習	内	外	任	任	の連
			,			期	数			1	実		, .	1	_	携
1	0			PC演習I	Microsoft Wordを使用した基本的な文書作成能力を身につける。また、Word文書処理技能認定試験3級の合格を目指す。	1 後	32			0		0			0	
2	0			PC演習II	Microsoft Excelを使用した基本的な表計算の能力を身につける。また、Excel表計算処理技能認定試験3級の合格を目指す。	2 後	32			0		0			0	
3	0			PC演習III	Microsoft Power Pointを用いたプレゼン テーションの技法を身につける。また、 PowerPointプレゼンテーション技能認定試 験初級の合格を目指す。	3 前	16			0		0			0	
4	0			英会話 I	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身につけるために海外の文化・習慣についても学ぶ。	1 通	32			0		0			0	
5	0			英会話Ⅱ	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につけ、実践的に英会話を学ぶ。	2 通	32			0		0			0	
6	0			英会話Ⅲ	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につけ、実践的に英会話を学ぶ。	3 通	32			0		0			0	
7	0			コミュニケー ション技法	コミュニケーション手法を学び、自分自身 の言葉で、自分の意思を検数の人間に伝え る能力を高める。コミュニケーション検定 初級の合格を目指す。	1 前	16		0			0		0		
8	0			社会人常識マ ナー検定対策	(公社)全国経理教育協会認定資格3級受験のための対策講座。社会人としての基礎的教養を身につける。	3 前	16		0			0			0	
9	0			就職実務	就職活動に必要な企業研究、自己PRの作成 等の方法を学ぶ。また、模擬面接、筆記試 験対策を行い実際の就職活動に向けた準備 を行う。	2 後	16		0			0		0		
10	0			上級救命講習	人工呼吸法、心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法等の習得及び救急車到着までの応急手当の重要性を認識し、日常生活及びアウトドア活動における自主救護能力の向上を図る。	1 前	8			0		0			0	
11	0			山岳基礎知識	登山の基本的な知識として、用具や生活 術、ナビゲーション技術、山岳気象などに ついて学ぶとともに、妙高周辺の山につい て知り、自身の活動の幅をひろげる。	1 前	24		0			0		0		
12	0			スポーツ栄養 学	相互関係にある基礎体カトレーニングの授業で実践を行いつつ、スポーツの分野で結果を残すための栄養学を学ぶ	1 前	16		0			0		0		
13	0			フィールド観 察	学校周辺での自然観察を通じて、生きもの に関する基礎的な知識を得て、自然の仕組 みについて理解する。	1 通	64			0			0	0		
14	0			スポーツ生理 学	運動中 (活動中) に身体の内部がどのような生理学的変化をするのかを学び、体力の 向上・健康の維持・増進のための基本的な 方法について理解する。	1 前	16		0			0		0		
15	0			農業	僻地の農村での農作業体験(棚田での米作り)を通し、里山という空間、またそこで育まれたものとの触れ合いから感じるものを 人生や活動に生かしていく	1 通	54			0			0		0	
16	0			アクティビ ティデザイン	自然体験活動の指導者として必要な知識、 姿勢を身につける。また、短時間での活動 の企画・運営を行うプロセスを学ぶ	1 後	48			0			0		0	
17	0			アウトドアス ポーツ	野外活動の基礎であるナビゲーションスキ ル・ロープワークを習得する	1 通	96				0		0	0	0	
18	0			野外教育	野外教育の歴史や関連用語の整理や事例の 紹介を通して、野外教育の概観を理解す る。また、指導法や安全管理等について学 ぶ。	1 通	16		0			0		0		
19	0			森林生態環境	見る目」を養う。	1 後	16		0			0		0		
20	0			環境教育ワー クショップ	環境教育について自分なりの考えを構築することを目標とし、環境教育に対する各自の考え方を共有するとともに、現時点における意見・考え方の学生間の共通性や相違性を認識する。	1 後	24			0		0		0		
21	0			基礎体力ト レーニング	基礎体力おもに持久力の向上を目的にして、全日本代表レベルのアスリートの指導のもとに学校周辺でトレーニングを行う。	1通	32				0		0	0		
22	0			基礎体力ト レーニング指 導演習	基礎体力主に持久力の向上を図りながら、 前日本代表レベルのアスリートの指導につ いても学ぶ	3 後	16				0		0	0		
23	0			アルプス登山 実習	山岳プロ学科3年生の指導のもと、日本アルプスで縦走登山を行い、日本を代表する山岳エリアに触れるとともに、登山の基礎技術と安全管理能力を身につける。	1 前	40				0		0	0	0	
24	0			雪上キャンプ 実習	雪上でのキャンプ技術の習得と様々な活動 を通じて、雪の特性に触れるとともに冬期 における山岳でのサバイバルスキルを身に つける。	1 後	40				0		0	0		
25	0			雪上スポーツ	代表的なウィンタースポーツであるス キー、スノーボードの基礎技術を習得す る。	1 後	32				0		0	0	0	
26	0			キャンプ実習	野外教育の代表的なプログラムであるキャンプ活動に関する知識や技術を体験を通して学ぶ。日本キャンプ協会のキャンプインストラクター養成講習会を兼ねる。	1 前	32				0		0	0	0	

27	0		森林管理実習	日本の林業の実態と問題点を学ぶと共に、 自然環境保全に貢献できるような森林管理 のあり方を実践するとともに、チェン ソー・刈払機の安全講習を兼ねる。	1 後	32			0		0		0
28	0		キャンプビジ ネス実習	都会の公園やキャンブ場で、近年広がりを 見せている都市型のアウトドアビジネスや キャンブビジネスを学ぶ。	1 前	32			0		0	0	
29	0		リスクマネジ メント	のようにリスクを見極め、対処していくか について考察する。	1 前	32			0		0		0
30	0		生態学	自然界で見られる生きものどうしのつなが りが長い進化の過程を経てどのように形作 られてきたのかを解説し、自然界の成り立 ちについて理解を深める。	1 前	16	0			0			0
31	0		野外教育指導 実践 I	昨今の野外教育のおかれる状況を理解した 上で、野外指導者としてより専門的なプロ グラム提供を試行する	1 後	32			0		0		0
32	0		野外教育指導 実践 II	これまでに修得してきた野外活動における 諸スキルをベースに、自然環境に配慮した 比ITの 7原則とさまざまな教授法を用いた 指導を経験学習サイクルで実践する。ま た、自然環境下でのソロ遠征(24時間以 上)によって野外教育指導者としての意識 向上を目指す。	2 後	32			0		0		0
33	0		インタープリ テーション	自然解説 (インタープリテーション) を行う上での基本的な考え方、技法を学び、実際にインタープリテーションを実施する。	2 前	24		0		0	0		0
34	0		自然ガイド企 画・実践 I	自然ガイドに求められる自然の知識や基本 スキルの習得を目的とし、場所・時期・対 象にあわせて1時間ほどのガイドプログラム の企画・運営ができるようになる。	2 前	32		0			0	0	
35	0		自然ガイド企 画・実践Ⅱ	象にあわせて1時間ほどのガイドプログラム の企画・運営ができるようになる。	3 前	32		0			0	0	
36	0		森林生態保護	私たちが日々の暮らしの中で受けている自然の恵みを理解するとともに、森林が直面する様々な問題とその問題を解決するのに必要な方法を学ぶ。 日富生活の中で行いやすいアワトトアス	2 前	16	0			0		0	
37	0		ヨガ I	日常生活の中で行いてもいアクトアへ、ボーツの代表でもあるヨガを学ぶことで、自身の健康への意識を高めるとともに、競技力を高めるための精神力、身体力を養	2 前	32			0	0	0		0
38	0		∃ガⅡ	日常生活の中で行いやすいアウトドアス ボーツの代表でもあるヨガを学ぶことで、 自身の健康への意識を高めるとともに、競 抜力を高めるための精神力、身体力を養 う。また日本のアウトドアスポーツや健康 問題への現状をヨガを通して理解していく	3前	32			0	0	0		0
39	0		プログラムデ ザイン I	学校が有するさまざまな資源を社会の多様 な場面で活用し、社会の発展に貢献できる 事業を企画・運営する能力を身につけるため、日帰りの自然体験講座の企画・運営を 行う。	2 通	96		0		0	0	0	
40	0		プログラムデ ザインⅡ	組織キャンプ等の企画・運営・評価の一連 を通して、野外教育活動におけるディレク ション能力を身に付けることを目的とする	3通	96		0		0	0		0
41	0		アウトドアイ ンストラク ター演習	び、お客様にインストラクションする中で、現場でのプログラム・安全管理・コミュニケーションを学ぶ。	2 通	##		0			0	0	
42	0		アウトドアイ ンストラク ター演習 II	び、お客様にインストラクションする中 で、現場でのプログラム・安全管理・コ	3 通	##		0			0	0	
43	0		ファシリテー ション演習 I	これからの指導者に必要な、人と関わっていく上で必要な人間関係のファシリテーションのスキルと考え方の基礎を体験を通じて学ぶとともに、ふりかえりの仕方を学	1後	24		0		0			0
44	0		ファシリテー ション演習 II	じて学ぶと共に、振り返りの仕方を学ぶ。	2 前	24		0		0			0
45		(アウトドアイ ベント実践 (信越五岳)	信越地域の代表的なトレランレースである 信越五岳トレイルランニングレースの運営 に参加し、レースの運営を学ぶとともに地 域資源の活用について学ぶ	2 前	40			0		0	0	
46	0		アウトドアス ポーツ実習 (フィットネ ス)	由とその重要性を理解し、アウトドアス	2 後	32			0		0	0	
47	0		アウトドアビ ジネス実習 I	ウンテンバイクを題材に実践的に学ぶ	2 前	32			0		0	0	
48	0		アウトドアス ポーツ実習 (パドル)	水上のアウトドアアクティビティとして最 もポピュラーで有用な、カヤックやSUPのイ ンストラクター資格を取得した上で、ダウ ンリバーにも挑戦する	2 前	32			0		0	0	0
49	0		アウトドアビ ジネス実習 II	仕事にする」ことについての理解を深め、 意欲を高める。	2 後	32			0		0	0	0
50	0		ウィルダネス ファーストエ イド	緊急医療体系へと引き継ぐまでに時間のから状況での野外教皇法を学び、さまざまな身体機能の問題や障害から引き起こされるトラブル・野外における環境やストレスからくる怪妻や体調不良に対処する医療知識・技術を習得する。	2 前	50			0	0			0
51	0		自然公園実習	自然公園、ビジターセンター等を巡り、自然公園に対する理解を深める。また、様々な施設の比較を通して、より良いビジターセンター・インターブリターとは何かについて考える。	3 後	40			0		0	0	
52	0		バックカント リー実習	雪崩リスクマネジメントに関して学習し、 バックカントリーでのスキー、スノーボー ド等、積雪期の野外活動に必要な技能を習 得する。	2 後	32			0		0		0

		・ 全年次に即	卒業要件及び履修方法 講された科目において、すべてC以上、または							業期	間等			
	_	合計	78 ※総単位時間:2936単位時間のうち、近			40単	位日	寺間	を除し		〉 修	科目		
78	0	ナー研修	につける。	後	16			0	_	124 4	÷ /^	oe m	O	RA V
77	0	就職準備が	修 「就職」について再確認する場とし、就職 活動の心構えを学ぶ。 実社会で必要とされるビジネスマナーを身	2 後 3	16			0		0	0	0		
76	0	就職準備研工	修 他者との関わりの中で、自分自身について 振り返る。また、社会におけるコミュニ ケーションの重要性を理解する。	1 後	16			0		0	0	0		
75	0	海外研修	海外のアウトドア関連の先進的取組を学習する。令和4年度は代替として、国内で高品質なツアーを開催する外国人経営の施設を訪問し学ぶ	3通	80				0		0	0	0	
74	0	特別授業	外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容 や専門スキル、人材ニーズを理解するとと もに、社会人としての心構えを学ぶ。	1 ~ 3 通	24		0			0			0	
73	0	ホームルー	ム 授業・実習、インターンシップ実習、学校 行事等についての準備・意識づけを行う。	1~3通	48		0			0		0		
72	0	雪上スポー 指導実習	を期野外活動の代表的な種目であるアルペンスキー、クロスカントリースキーの指導力の向上を図る。	2 後	32				0		0	0		
71	0	アウトドア ポーツ実習 (MTB)	ICKE C 40	3後	32				0		0	0		
70	0	エコツアー 習	得を目指す。 ①エコツーリズムの概念を理解し、里山里 実 海地域での可能性を探るとともに、活用し たエコツアーを企画し、将来の地域活性化 に役立てる。	3後	32				0		0	0		
69	0	プログラ <i>L</i> ネジメント 践	実型の自然体験活動の指導・運営スキルの獲	3 前	72				0		0		0	
68	0	アウトドアイフ企画ま	世域でのロゲイニングイベント運営を通して、アウトドアスポーツイベント企画運営、マネジメント、地域活性、スポーツ	3 前	32				0		0	0		
67	0	自然ガイト 定対策 II	ロナルらポノドめ入却ウの「白杵ポノド・	3 後	40				0		0		0	0
66	0	自然ガイト 定対策 I	日本山兵ガイド协会認守の「白妖ガイド」	3 前	40				0		0		0	0
65	0	インターン シップ実習	目指す。 専門分野での実務力向上や高い職業意識を 持つため、将来のキャリアに関連する就業 体験を行う。	1 前	##				0		0		0	0
64	0	自然体験活	自然体験活動の指導・運営スキルの獲得を	2 前	72				0		0	0		
63	0	自然体験活 指導実践 I	学校の主催する組織キャンプ(妙高雪上動 キャンプ)の指導運営を通して、宿泊型の自然体験活動の指導・運営スキルの獲得を	1 後	48				0		0	0		
62	0	プログラ <i>L</i> ネジメント	組織キャンプ (妙高冒険キャンプ) の企	2 前	48			0		0			0	
61	0	卒業研究	ようになる 自ら気づき、調べ、まとめたものを最終的 に卒業論文や発表会でのプレゼンとして完 成させる。	3 通	32			0		0		0		
60	0	アウトドフ ポーツ指導 習	演 アクティビティの企画やイベントができる	3通	96			0			0	0		
59	0	プログラ <i>L</i> 画運営 II	アスポーツの指導方法、イベント運営方法	3 後	16			0			0	0		
58	0	プログラ <i>L</i> 画運営 I	ノルディックウォーキングの教室やイベン 企トを企画運営することを通して、アウトド アスポーツの指導方法、イベント運営方法	2後	16			0			0	0		
57	0	マリンスオ ツ実習	2泊3日の海上、海浜活動を通して、所定の 技術習得を達成し海というフィールドの理 解と魅力を 体得することを目的とする。	2 前	32				0		0	0	0	
56	0	地球環境科	解できることを伝える。 地球環境問題を身近な問題として理解する 学とともに、自然産業分野に必要とされる基 砂知識を身につける。	2 後	16		0			0		0		
55	0	ター) 動物行動学	事業展開、戦略などを学ぶ 動物の行動が自然選択のメカニズムを通じ て進化してきた事実を解説し、生物の様々 な行動も進化という観点から見るとよく理	2 後	16		0			0		0		
54	0	アウトドラ ポーツ実習 (ウォー	ら、業務の留意点や顧客へのサービス内容 の工夫に加え、各事業の成り立ちや今後の	3前	32				0		0		0	
53	0	ガイド検定 記試験対策	本を元に自然ガイドの基礎的知識及び専門	2 後	16		0			0		0		

※総単位時間:2936単位時間のうち、選択科目40単位時間を除いた必修科目の総計

卒業要件及び履修方法

在業要件: 全年次に開講された科目において、すべてC以上、またはPの科目評

「個を受ける事。要出席時間数の80%以上出席していること。

「一個を受ける事。要出席時間数の80%以上出席していること。

「個を受ける事。要出席時間数の80%以上出席していること。

「個を受ける事。要出席時間数の80%以上出席していること。

「世界の学期区分 2 期

「関係方法: 必修科目は各学科特定の時間割により出席。選択科目は個別に希望調

「学期の授業期間 8 週

(留意事項)
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。